

第1回清水町地域福祉計画策定委員会 会議録（要約）

日時 令和6年11月12日（火） 18時00分～19時30分

場所 保健福祉センター2階 研修室

【出席者】

委員：真野篤、土屋博敬、會田豊、石井康浩、高橋やよい、武田静江、堀敦子、松田恵子
（欠席：秋島由貴）

事務局：保健福祉課長（藤田哲也）、同課長補佐（阿部俊夫）、同課長補佐（我妻康広）、
福祉係長（佐々木淳）、健康推進係長（倉重千晶）、福祉係主査（田中実里）

説明員：澤村和裕（㈱ぎょうせい上席主任研究員）、佐藤結生（同主任調査員）

傍聴者 0名

1 開会

2 委嘱状交付

※ 事務局より、各委員及び担当職員を紹介

3 副町長挨拶

4 委員長、副委員長の選出について

※ 委員の互選により、次のとおり決定

委員長 真野 篤 委員

副委員長 土屋 博敬 委員

5 諮問

6 議事

（1）策定委員会について

※ 事務局より、委員の任期・役割等について説明

（2）清水町地域福祉計画について

（3）地域福祉計画に関するアンケート調査について

※ 説明員（㈱ぎょうせい 澤村主任）より、計画の基本的な事項、町の現状、福祉施策の評価、アンケート調査結果について、資料に基づき説明

【以下、質疑応答】

（會田委員） 高齢化が進んでいる中で、要介護認定者数が横ばいで推移している理由は？

（事務局（藤田）） 高齢化率は上がっているが、人口減少で各年代の人口そのものが減っていることから、全体として横ばいに推移しているものと考えられる。

（會田委員） 施策評価の中で、避難行動要支援者への支援体制の充実という項目がＣとなっているが、現在の進捗状況と課題となっている部分があれば伺いたい。

（事務局（藤田）） 要支援者の名簿については、保健福祉課より情報提供をした上で、総務課の防災担当で管理を行っている状況。ただ、随時情報の更新ができていくかというと、実際は年度ごとに1回といった形になっているので、そういったところをタイムリーにやれるかどうか。また、その先の支援の実施体制という部分では、町全体としては弱い部分として認識している。

（高橋委員） 外国人人口について、本町の外国人はほぼ技能実習生となっているが、本町に残り永住されている方というのはいるのか。

（事務局（藤田）） 外国人登録という住民票の登録制度の中で、登録者数をデータで示しているところであるが、登録された方が本町に何年留まっているかというデータまでは持っていない。ただ、最近ここに来て永住者とか子育て世帯にある外国人の方が、少し入りつつある要素が出てきそうということは加味している。

（高橋委員） 人口不足の中で、外国人の雇用について福祉分野でも検討していかなければならないと思っていて、先駆けて実習生を受け入れている方々の状況や課題等について詳しく知りたいと思った。また、移住されてきた方々が、どのような目的で、どのような職に就いて永住されているかといった部分も知りたいので、もし機会があればと思っている。

（事務局（藤田）） 福祉課としては、本町において外国人の方が介護医療の現場に入っているというのは、現状ないという状況だと認識している。どこまで調査できるか微妙なところではあるが、もし外国人の方が、現状どのような人数でどんな仕事に就いているかといったデータが整理できるようであれば、以後の会議でお示しできればと思う。また、移住者の推移については、人数や年代、どのような年代の時期に移住してきているかなど、次回以降にはなるがお示しできればと思う。

（土屋委員） いじめの認知・解消件数を見ていて、だんだんと認知されている件数は増えている印象がある。今こうして数字が上がっているということは、いじめに気付いてもらえる件数、解決してもらえる件数が増えていることと思うが、どういう理由でこの件数が上がっているのか。

(事務局(藤田)) 何をもって解消とするのか、何をもって認知とするのかというところの基準については、所管が違うため、今この場で明確にお答えすることはできないが、全体の流れとしては、教育現場においてそういったものを積極的に捉えようとする姿勢の表れと考えている。

(土屋委員) 中高生アンケートの中で「清水町に住み続けたいかどうか」という項目があるが、以前の計画策定の際もこの項目はあったのか。

(事務局(阿部)) 毎回、住み続けたいかどうかというのは、基本的には聞いている。自分の町に対してどう思っているかというところは、極力聞くようにしている。

(土屋委員) 今回の結果はここに出ているとおりだが、平成26年からどういう推移で変わってきているのかというのが知ればいいと思う。昔はもっと住み続けたいという子たちがたくさんいたのか、今の子どもたちは清水にあまりいたくないと思っているのか、というのがあれば、さらに内容が良くなると思う。

(事務局(藤田)) 少し余談になるが、本町では高校3年生を対象とした模擬議会を実施しており、高校生が議員役として一般質問を行う機会を設けている。模擬議会では若者の視点から、「どんなものがあれば町に若者が来るか」「どうすれば町が魅力的になるか」といった内容で意見が出され、町長がそれに答える形となっている。

高校生からは「娯楽施設がない」という声が多く、特に通学してくる生徒の多くが町外からきている状況もあることから、町内の娯楽の乏しさが指摘されている。一方で、高校生たちは必ずしも商業的な施設を求めているわけではなく、自然や街並みなどの部分に町の魅力を感じているところもある。

また、若者の進学や就職先の変化、ライフスタイルの多様化により、「大都市への一時的な移動」や「仕事や生活環境を重視して転職する傾向」が強まっている。今後は、一箇所に長く留まらない生き方が主流になるとみられる。

そうした中で、本町としては「定住人口」だけではなく、「関係人口」、町に住まなくてもかかわり続ける人の存在を重視している。町と若者が将来にわたってつながり続ける関係性を築いていきたいというのが、町の総合計画における大きな目標である。

(事務局(阿部)) 平成26年に今回と同じように、清水中学校、御影中学校、清水高校の生徒200名にアンケートを実施し、その中で「将来も清水町に住み続けたいかどうか」という質問をしている。回答の割合としては、「住み続けたい」が6.8%、「一度離れてもいつかは戻ってきたい」が30.7%、「将来は他のところに住みたい」が29.9%、「わからない」が37.5%となっている。

(説明員(澤村)) 前回は「わからない」という方が3割以上いたのが、今回その割合が半分く

らいに減っているので、自分の考え方がはっきりしている人が増えてきたということではないかと思う。若者の地元志向は珍しいことではなく、良いところがあれば地元でもいいということで、意識が変わってきているのではないかと思う。

（會田委員） このアンケートの結果を、ある程度地域福祉計画策定の参考にしていくことになるかと思うが、アンケート回答者の年齢構成について、高齢者が多いように感じていて、一般の方、65歳以下の部分での困りごとなどを正確に反映するためには、どのようなことを考えなければならぬか。

（事務局（藤田）） アンケート回答の年代にはどうしても偏りが出てしまい、高齢者や子どもは比較的高い回答率を示す一方で、現役世代、特に子育てや仕事に忙しい方々は回答率が低くなりがちである。そのため、アンケートの結果をもってすべての施策を決めるという考えは、保健福祉課としては持っていない。とはいえ、アンケートは重要な指標の一つであり、特に世代ごと傾向や特徴については分析を行い、できる限り計画に反映していきたいと考えている。

計画自体は、あくまで町の福祉施策の「方向性」を示すものであり、全ての具体的施策を細かく記載するものではないが、少数意見や若者の声なども軽視せず、できるだけ多様な意見を反映していく方針である。

7 第2回策定委員会について

※ 事務局より、日時等詳細が決まり次第、各委員へ通知する旨説明。

8 閉会